

令和7年度全国学力・学習状況調査

本校の実態と改善に向けた取組計画

朝来市立朝来中学校

I 国語

1 結果分析

令和7年度の国語の調査では、本校は、兵庫県・全国とほぼ同程度の結果であった。

2 課題

具体的には、本校の国語科ではB（書くこと）に関わる学習に課題があると考えられる。語彙や表現の課題だけでなく、図や表を用いるなど表現の工夫をすること、あるいは文章と図や表など情報同士を結び付けて考えることを苦手とする生徒が多いと推測される。

3 国語科課題解決に向けて

実際の授業においては、引き続き「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、授業づくりのユニバーサルデザイン化に取り組み、生徒一人一人を主体とした授業づくりを行う中で深い内容理解に導いていく。教科に関係なく、「課題を明示すること」「課題に対してしっかりと考える時間を確保すること」「生徒の思考プロセスが視覚化されるような教材を用意すること」「学んだことを振り返り、言語化して表現する時間を確保すること」の4点の取組により、「書くこと」の力をつけていく。また、学校での教育活動全体を通じて、正しく語彙や文字を使えるよう適宜指導を行っていく。

具体的には、授業の終末に100字程度で考えをまとめたり、学んだことを言語化して他者と交流する時間を設けたりする等のアウトプットの活動を取り入れる。

他にも、テーマや題材を設定して、ICT機器も活用しながら必要な情報を収集し、資料を適切に引用したり図表を用いたりして考えを文章にまとめる学習活動も設定していく。

また、生徒同士で書いた文章を推敲し合う、書いた文章等の成果物を校内に掲示するなどの活動を取り入れることで、「読まれる」「見られる」が前提となり、正しい漢字や言葉遣いへの意識につながると考えられる。日々の生活ノートへの記録等も含め、学校全体で普段から正しく漢字を使って文章を書くよう指導を進めていく。

II 数学

1 結果分析

令和7年度の数学の調査では、本校は、兵庫県・全国とほぼ同程度の結果であった。

2 課題

領域A（数と式）・B（図形）に関わる学習に課題があると考えられる。一方で、C（関数）・D（データの活用）に関わる学習は、比較的理 解できていることが分かる。今回の結果から、AやBの領域の基礎知識の定着に課題があると考えられる。

3 数学科課題解決に向けて

改善に向けた授業展開として、基礎知識の定着を図るために、「本時の学習目標・内容の確認」「学習内容の振り返り方の工夫」「意図的な発問の設定」「活動の充実」「既習事項を振り返る時間の設定」が必要であると考え、今後取り組んでいく。

「本時の学習目標・内容の確認」と「学習内容の振り返り方の工夫」については、すでに授業づくりのUD化の観点から行っていることではあるが、その授業でどのような知識を使ってどのようなことを新たに学習していくのかを見通すことが、その時間の学習内容を整理し、定着することにつながる。また、授業の最後の振り返りでは、ただ口頭で確認して終わるのではなく、確認テストやクイズ形式で生徒自身が理解しているかを把握して終われるようにしていくことが必要である。

また、「意図的な発問の設定」と「活動の充実化」については、教え合いやグループワーク、操作活動やゲームなどの活動が有効であると考える。学習意欲を向上させるために、様々な場面で発問を設定し発表することや話し合いによって、自分の意見に自信を持たせる機会を設けていく。そして、ただ話を聞くだけではなく、感じたことを話し合ったり一緒に考えたりする場面や生徒が充実感を得られる活動を取り入れて学習をすることは、印象に残りやすく、同時に知識を定着させることにつながると考えられる。例えば、図形分野を中心に実際に動かせる教具を準備したり、ＩＣＴを活用して図形や関数などの変化をみたり、フラッシュカードやクイズといった全員で参加できる確認の時間を設定することが挙げられる。

さらに、「既習事項を振り返る時間の設定」によってこれまでの学習内容に何度も触れ、基礎知識の定着がはかられると考える。数学は既習事項を用いて新しい内容に発展させていく教科である。このことから、授業の最初で学習内容や目標を確認すると同時に、その授業で用いる既習事項を確認する時間の確保が重要であると考える。用語の確認や解法の振り返りを授業の最初に設定することで、教師側はそこでまずつきがないかどうかを把握し、生徒は本時の学習内容の見通しが持てるようになる。

III 理科

1 結果分析

令和7年度の理科の調査では、本校は、兵庫県・全国とほぼ同程度の結果であった。

2 課題

分野ごとの正答率では、生命領域において低い傾向がみられ、エネルギー領域・地球領域において高い傾向がみられた。粒子領域では、全国・兵庫県の正答率と比較すると、ほぼ同じ結果であった。しかし、電熱線を利用した回路に関する問題、大地の変化に関する問題では、全国を大きく上回る正答率であった。

3 理科課題解決に向けて

本調査で満足のできる内容としてあげたものは、主として知識・技能に関する問題が多かった。定期的に週末課題や小テストを実施することで知識の定着を図ることが大切である。また、授業の中でその内容に関する計算演習に取り組む時間を確保することも必要である。

本調査では、「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのか?」という疑問を解決するための課題を記述する問題の正答率が低かった。また、本校では実施していないが、予測正答率として「考察」をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題の正答率が低いと考えられた。

以上のことから、指導改善のポイントとして、実験・観察を通して予想→結果→考察の思考を身につけることが大切である。個人で考えた意見や考えを班で共有し、全体の場で発表することで自信にもつながる。自分の意見や考えを記述する機会を多く設定することが望ましいと考える。

IV 質問

1 結果分析

- ・「新聞を読んでいますか」や「読書が好きですか」という質問に回答した生徒の割合が全国平均より高い。
- ・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問に、「3時間以上」と回答した割合が全国平均と比べて低く、「1時間以上2時間未満」と回答した割合が全国平均と比べて高かった。
- ・「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることありますか」の質問に、「よくある」と回答した生徒の割合が全国平均と比べ、高い。

→このことから、週末の学習時間は1時間以上3時間未満で家庭学習に取り組んでいる生徒が多い。また、読書に親しむ習慣が身についていると考えられる。

週末は家族や地域の大人と一緒に、スポーツや体験活動に参加し、アクティブに活動する生徒が多くいることが考えられる。体験的な学習も大切にしつつ、少ない時間の中で、自分に合った学習を効率的にしていくことが望ましいと考える。

- ・「自分にはよいところがあると思いますか」や「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答した生徒の割合が約20ポイント高い。また、「人が困っているときには、進んで助けていますか」の質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒の割合も全国平均より高くなっている。

→このことから、教師が意識してプラスの声掛けをしていくことで、自己肯定感が高まり、生徒が自分に自信を持つことに繋がっていると考える。また、自分に自信を持つことで、周囲へ配慮や、自ら行動しようとする意識の向上がみられると考える。

2 今後に向けて

- ・分析結果から本校では、読書活動の取組に力を入れていて、日頃から本や新聞を読む生徒が多い。また、ビブリオバトルなど話し合い活動を通して、他者の考え方や意見を参考にして自分の考えを深めようとしたり、新たな考え方方に気づこうとしている。しかし、一方で自分と違う意見について考えることに苦手意識が高く、また、自分の考えを発表する場面で、工夫して相手に伝わりやすく発表できたかという問い合わせに対して、否定的な回答をする生徒が多い。このことから、自分の考え方や発言に対して自信を持つことができていない生徒が多いことが伺える。

また、家庭学習については、自分に合った課題に取り組む必要があると考える。

そこで、本校では以下の3点について学校として取り組むこととする。

①読書活動の充実（朝読書・図書室利用者を増やす・給食前読書の取組の継続）

②どの教科でも話し合い活動を取り入れ、活発な意見交換の充実を図る。

- ・複数人で意見を共有し、意見をまとめる。

- ・相手の意見に対して、問い合わせをする。（聞き方を学ぶ）

③タブレット端末を利用し、自分に合った課題に取り組む。（eライブラリの活用）